
光と、闇と、それから君で、、、

尖角

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

光と、闇と、それから君で、、、

【Nコード】

N 8 6 3 7 V

【作者名】

尖角

【あらすじ】

サブタイトルが本物の小説。

中身は詩みたいなものです。

お前は、なぜそんなに死にたがるのか？（前書き）

「恋と、愛と、それから君で、、」に次ぐシリーズです。
しかし、これといったつながりはないです。
ではどうぞ――！

お前は、なぜそんなに死にたがるのか？

光は輝き、闇は静かで、、

闇は彩り、光は五月蠅く、、

陰と陽は仲良しで、光と闇はそれにつられて。

光と闇は狂おしく、陰と陽もそれにつられて。

涙は照らされ、笑顔は隠れ、

今から告げる、別れの為に、

鞭打つ鼓動が刹那に響く。

君は何を見て、何を想い、一体何を唄うのか？

俺は君を探し、愛を求め、愛に飢える。

凄まじい狂気が俺を包み、君は何処だと問うのが日常。

さりげない毎日の中で、君と愛を唄えるのなら、満足で。

俺はその為に、愛は何なのかと問い続けるのだ。

俺はお前を支えると誓ったはずだ。

なぜ君は闇に行くのか？

そこには何もないと言うのに。

俺には決して見えないのだろうか？

いくつになっても、君と別れても。

さよならなんて、嘘だと思っていた。

そこには、希望があると思っていた。

それは、はたして俺だけか？

君は何を考えていたのか？

俺にはさっぱりわからない。

愛の宴は、消えてしまったの？

泡沫は儚く、さりげなく。

俺は君を死ぬまで求め、君は俺から逃げる存在。

待っていてよ、必ず見つけるから。

たとえ死んでも、死んだとしても。

子供がでにくい？

一生、一緒。これが嘘。

なんで？　なんで？

ありえないでしょ？

夜空の星は？　誓いの言葉は？

「愛す」は何処へ？　溶けてしまったの？

君は何処へ？消えてしまったの？

涙は何処へ？枯れてしまったの？

憎くはないよ、愛が欲しいだけ。

寂しくないよ、君が欲しいだけ。

何処なの？　何処なの？　君は何処なの？

さよなら？さよなら？嘘はやめてよ。

別れも、何も、言わないで。

君はそれで満足かい？

それならそれで、我慢するけど。

俺は、満足できないよ。

我慢に我慢を重ねても、君に会いたいそれだけは、

変わらないこと、至極無常。

そんなの関係ないさ。

嬉しくて、楽しくて、

だけど、想いを通わせられなくて。

悲しくて、辛すぎて、

だけど、繋がることは決してなく。

あなたが欲しいと欲っいてよ。

ちよつと前まで、少し前まで。

あなたが愛しいと思っいてたよ。

ちよつと前まで、少し前まで。

悲しくないの？私がいなくて。

寂しくないの？私がいなのに。

あなたをこんなに思っっているのに、

あなたの気持ちを手に入れることはできない。

「好き」という言葉だけじゃ嫌なの。

どんな時でも、何をしてても離さないでよ。

いつかはできるぞ。

2つの影が重なり、己となる。

1つの影が唄い、君となる。

失いかけた影の数だけ、

きつと、きつと、強くなるから。

悲しさは消えて、水面にさんざめく。

意思は穿たれ、波に消えゆく。

それは、中毒性の高い毒薬。

それは、麻痺性が高い劇薬。

辛さをも忘れ、君と共に。

涙は溢れ、快樂の道へ。

もう戻ることはできない、一生の誓い。

一緒にいれば、どんなことでも。

苦しくても、そこが茨の道でも立ち続ける。

そこに君がいる限り。

絶対に離すことはしない。

そこに君がいる限り。

それにそれが全てではないだろう？

愛情？友情？

どちらが大切？

どっちも大切？

そんなのやめてよ。

私は？あなたは？

恋人同士？

そんなの当然。

わかりきってる。

あなたは何処に？

行ってしまうの？

友達？別力ノ？

そんなの嫌だよ。

私は何なの？

果たして遊び？

それだけは嫌なの。

強く抱いてよ。

なんでダメなの？

なんで嫌なの？

あなたのお飾り？

そんなの嘘だよ。

お願いだから、お願いだから、

1日ぐらいは、1日だけでも。

他を忘れて、私のもとに。

来てよ、お願い。今回だけでも。

俺等の結婚はそれだけのためだったのか？

今宵は盛大なる祭り。

君を抱き、君と唄い、君と儚く、、

ラブソングなんて、よもや皆無。

君の瞳にある眼差しだけで、、

嬉しく、悲しく、楽しくて、、

されど、勝らん。勝利の女神には。

けれど、交わらん。勝利の女神とは。

昔の彼氏？ そんなの忘れて。

昔の男？ そんなの忘れて。

今日だけ、今日を楽しもう。

明日になれば、すべて過去。

そんな単純、俺等の関係。

関係作りはやめにして、関係なしに踊り舞う。

だから、今宵は大きな祭り。

最初で最後の大きな祭り。

俺はお前が生きてくれていれば、それでいい。

のどの渇きも癒えないまま、君の元へ。

大好きだから、大好きだからこそ。

どんなに離れても、変わらない気持ち。

ここにいて誓った、胸の奥の高鳴りやバイ。

今すぐ会いたい、君に逢いたい。

変わらない、俺の気持ち。

変わることはない、俺の気持ち。

勘違いはしないでくれ。

俺はずっと、ずっと君が好きだ。

これから先も、ずっと、ずっと、、

愛はもらった、今度は注ぐ。

今度は俺で、君は次回。

さよならなんて、蚊帳の外。

それが俺で、それが君。

贅沢を言うのなら、お前の前に死ねるなら、それでいい。

太陽が熱いなら、俺等も熱く。

空気が暑いなら、俺等も熱く。

燃え盛る大地、燃え尽きない俺等。

最後にはしたくない、あの感動。

君と共に過ごす、最高の夜。

あの日の宴、散りゆくことなく。

誰もが振り返る、俺等の生き様。

他の誘いなんて乗る必要はない。

俺が全てで、この世の始まり。

終わりは君で、俺も共に。

ドキドキは終わらない、君と出会ったときから。

幸せすぎて溢れそうな涙の数だけ、俺等は強い。

前世も、来世も、最後の時まで共に過ごそう、俺等2人。

お前の笑顔をみて、お前の涙を拭えれば、それでいい。

君の心の鍵は、一体何処にあるのか？

君の扉は、一体いつになったら開くのか？

俺には、決してわからない。

一生をかけてもわからない謎。

それが君という存在。

全てが謎で、全てが秘密。

そこが魅力で、俺は惹かれた。

愛し合う2人の関係。

全てが“幸せ”に満ちていた。

君が不幸の渦に吞まれるまでは。

君が死んでしまうまでは。

悲しいけれど、それが現実。

俺は君に花を手向^{たむ}けるだけ。

ただ、それだけの存在。

悲しいけれど、それが現実。

そして、お前の望む子供ができるなら、言うことはない。

心の傷がいえない君を抱いたとしても、俺の心の傷は広がるばかり。別れを共に言い出せない俺等は、それぞれ似た者同士で、生意気なんだ。

臆病は大概にしておけばいいのに、それはそれで収まらない。

それが俺で、それが君だから、問題ないけど。

愛してるが言えないままで、別れるなんて。

悲しい事は悲しいし、寂しい事は寂しいと感じている。

それはお互い同じで、それがまた何とも言えない味を出している。

共に過ごしたあの時が、今は何故か懐かしく感じてしまう。

忘れたくないよ、君という存在を。

忘れようとしないう、俺という存在は。

しかし、たとえそれが出来なくても、お前がいれば。

夕焼けに沈みゆく太陽。

朝日として昇りゆく太陽。

君は俺の手の届かない存在。

二人なら進めるはずだった。

求め続けた存在はずだった。

しかし、想いは共に雲の上。

感情は悲しみに沈み、憎しみとして昇りゆく。

人の定めは「出会い、そして別れる」

それを俺達は実感してしまった。

人は変わることはできない。

それも、俺には分かってしまった。

春夏過ぎて、秋冬が来ても、俺は変わらない。

一生をかけても、一生をかけなくても。

どうせ俺は変わることはできない。

お前がいれば、俺は満足できる。

壊れたおもちゃ。 回らないコマ。

毀れてしまった君。 廻ることのない世界。

涙はとめどなく溢れ出て、俺の感情は今どこに？

愛に愛され、愛に恵まれ、愛に泣く。

愛に愛され、愛に恵まれ、愛に笑う。

そんな俺の足跡は、過去へ未来へと繋がっている。

いつかは君に見せるであろう、俺との人生。

それで本当に君は満足かい？

それなら、俺が満足にしてみせるよ。

一生をかけて、お前を遠くまで飛ばしてやる。

遠くにある、大きな夢へと。俺等の行くべきところへ。

お前はどつなのか？子供が絶対なのか？

俺は君のハンカチ。

俺は君の自慢の男。

俺は君の飾り。俺は君の傍で。

俺は君の軌跡。俺は君の後に。

それだけで、それだけで、

それだけで、それだけで、

俺は満足なんだ。

死ぬなんてことはやめてよ。

暗いだけだよ？怖いだけだよ？

1人になるなんて言わないでよ。

もっと心配かけていいんだよ？

そして、俺が相談に乗ってハンカチになるんだ。

ご希望であれば、君に勇気という飾りをつけてあげよう。

それが俺のすべきことで、それが君のされること。

その向こうには、今以上の幸せが絶対にあるのだろうか？

一秒でも、一分でも長く近くにいたくて。

一秒でも、一分でも長く傍にいたくて。

会えない時間が果てしなく感じる。

辛くて辛くて、苦しくて苦しくて仕方ない。

時間が止まり、泣きたくなるんだ。

だけど、泣き顔を君に見せることはできなくて。

地球が100回公転しても一緒にいたい。

死しても同じ時間を過ごしたい。

君は君で、俺の全てだから。

俺には君しかないから。

最後まで共に、そしてまた始めから。

それが望みで、それが全てで。

決して、絶対ではないだろう？

大好きで、大好きで、
愛してて、愛してて、
届かない、届かない、
俺の手は、俺の手は、
傍に、永久に、共に、
居たくて、居たくて、
出来なくても、共に、
感じさせて、永遠を、
君にしか与えれない、
“ 幸せ ” という形を、
地味な存在に対して、
俺という存在に対し、
かけがえのない宝を、
一生のお願いだから、
一生のお願いだから、
地味な俺にください。
ダメかな？ダメかな？
こんな俺じゃあ・・・
ダメかな？ダメかな？
こんな俺だから・・・

決して、必ずではないだろう？

俺のたった一つの人生の中で、君という存在に出会えた奇跡。

こんなにも大好きな君に、こんなにも大切にされて、

掛け替えのないものを沢山もらい、君と共に笑い過ごせた軌跡。

人生というものは、互いに導きあっていると思うんだ。

だから、君は死んでしまったけど、

これからの世界でも、巡り合うことはできると思う。

そうじゃなきゃ、君が死んでからの俺の生きる意義がなくなる。

最後じゃないと思えるから、また会えると思えるから頑張れるんだ。

お前が望むのは良しさ。

何度も想いを告げて、

何度も君を想って、

何度も君に懺悔をした。

報われることのない俺の性。

繋がることのない俺と君。

心は離れ、「さよなら」と。

体を求めて、さりげなく。

苦しくて、抑えきれなくて、

どうしようもなく、君を求める。

辛いすぎて、我慢できなくて、

どうしようもなく、君を求める。

助けの声もあげずに、

ただただ無意味に死にゆく恋人。

されど、想いは紡がれん。

死しても、生きても、変わらないまま。

何度も、いつまでも、変わらないまま。

けれど、あきらめて死ぬのだけはやめてよ。

大好きなあなたに伝えたい。

想いの数だけなおさらに。

自分の声で伝えたい。

愛の数だけなおさらに。

悲しみに暮れて「ごめんね」を。

とめどなく溢れ出る涙の数だけ。

少ないけれど「大好き」を。

本トの気持ちで「愛してる」。

あなたは「どう思う?」「私のことを。

大事?大切?どう思う?

好きなら「好き」と言葉で告げてよ。

いつも、いつも、私だけ。

そんなの嫌だよ、一回だけでも。

あなたの口から、愛の言葉。

あなたの心から、愛の言葉。

俺を想うなら。俺が想っているから。

想いを言葉にして、あなたに飛ばす。

想いを歌にして、あなたに歌う。

想いを音にして、あなたに発する。

想いを込めて、あなたに告げる。

ディスク、アイシテル、オモツテル、
ソバニイル、カンジサセテ、イッショダヨ、
スキデス、キスシテ、これからも、、

私は、あなたといたいから、

何があっても離すことはないでしょう。

これから何があっても、たとえ何があっても、

試練なんて、二人なら。きつと乗り越えられるから。

あなたは、私を想っていますか？

この世の中で、誰よりも。。。

お願いだから、死ぬのだけはやめてくれ。

一生一度の人生ならば、あなたと共に過ごしたい。

一生一度の人生ならば、あなたと共に愛を唄う。

一生一度の人生ならば、咲かせてみせます愛の華。

愛おしくて、狂おしくて、とても言葉じゃ言えないほどに。

俺の想いは太陽より熱く、宇宙より大きいことはわかるかな？

二人で決めたいろいろな約束。俺が先で、君が後。

これは、これだけは、守りたかった。

君の死を見送らなきゃいけないなんて。

そんなに俺は強くないんだよ？

悲しいけれど、そうなってしまった現実。

けれど、俺はそれを憎むことなく歩み続ける。

>>君が生きた場所だから。

それが俺の願いで、行き違う？

この世に生を授かって、君と出会い、君と歩んだ。

俺の人生は波乱万丈で、とても楽しかった。

君という最高の相手。

君というかけがえのない人。

人生とは、なんと素晴らしいものか。

俺は今、人生に乾杯する。

共に歩んだ時間、共に追い求めた時間。

そのすべてが俺の想い出、そして俺の生きたあかし。

今はもう、共に生きてはいない人生。

それぞれの道へと歩み始めた時間。

空中に飛散した俺の御霊が、君の名を呼び続ける。

だけど、決して怖がらないで、見守っているだけだから。

そんなことは絶対させない。

まぶしい笑顔を放つ君。

今でも君を見ていて、ほほえましく思う。

風が“冷たい”と感じたときは、俺が悲しんでいると思って。

風が“温かい”と感じたときは、俺が喜んでいると思って。

そうして感じてくれれば、俺の想いは伝わったことになるから。

それだけで、それだけで、君と繋がってられる。

そう俺は感じる事ができるんだ。

ありがとう、君よ。大好きだよ、君よ。

俺にはこんなことしか言えないけれど、幸せになってくれ。

たとえば、一年に一度しか思い出さないようになったとしても。

それが俺の使命だから、それが俺の天命だから。
(前書き)

最後です^^

それが俺の使命だから、それが俺の天命だから。

天国は過ごしやすい場所かい？

君にとって「大事だなあ」と思える人は見つかったかい？

そうなら、僕は嬉しく思うよ。

そして、寂しくも思うよ。

見つけるのがあまりにも早いからね。

君は僕のことを覚えているかな？

この手紙は天国に届くのかな？

わからないけど、君の葬儀の時に僕は泣かなかったから。

心はぼろぼろだけれど、君との約束は守ったから。

けれど、それでよかったのかな？

君からの答えは、いくら質問したところで返ってこないから…

返ってこないから、どうしていいかわからない。

だから、俺の足元を照らしてよ。君の温かい光でさ。

それが俺の使命だから、それが俺の天命だから。（後書き）

「恋と、愛と、」 「光と、闇と、」 「どちらがよかったでしょう？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8637v/>

光と、闇と、それから君で、、

2011年10月9日03時02分発行